

<投資の裏側>

歴史から学ぶバブル相場
～温故知新⑧～

「投資INSIDE-OUT」～温故知新～では、相場の大きな転換について考えていきます。

◆相場の天井を見極めるには

「歴史から学ぶバブル相場」の前回、前々回では、過去に起きたバブルの特徴について検証してきました。最終回の今回は、相場の天井を見極めるにはどうすれば良いのかを検証します。

バブルであるかどうかを株価の割安・割高指標であるPER(株価収益率)の水準で判断しようとしても、バブル時は異常値も発生することから、あまり有効に機能するとは思えません。その一方、市場全体が天井の時は『一握りの大型株の一極集中』が起きてピークを付けるという特徴が過去見られました。

大型株/小型株の相対株価推移では、過去のバブルでいずれも大型株が顕著な上昇を示しています。

- ◆1973年1月(鉄鋼、海運、商社などの銘柄が天井を付けた資源バブル)
- ◆1987年4月(不動産、金融などの銘柄が天井を付けた資産バブル)
- ◆2000年2月(電機や新興株など成長株銘柄が天井を付けたテクノロジーバブル)

東証1部大型株式指数/小型株式指数の相対株価推移

(1968年11月末～2020年8月17日、日次)



足元では、やっと大型株が相対的に上がり始めたと見ることもできますが、過去3回のバブル期に比べると、上昇とまでは言える状況ではありません。

足元がテクノロジーバブルであるならば、大型株の動きをみる限りでは、日本においてのピークは、まだまだ先かもしれません。(清飛)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。